

【資料Ⅰ】

※書名の表記は第6学年のものに統一

教科種目名《外国語(英語)》

※詳細については、資料Ⅱ(英語-8～英語-17)を参照

発行者の略称	東書	書名	NEW HORIZON Elementary
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「知識・技能」の習得に関して、児童が日本語と英語の語順の違いに気付くよう、関連のあるいくつかの文を列挙するよう構成されている。 □ 「思考力・判断力・表現力等」の育成に関して、児童が自分で文章を考え、英語を使って表現できるよう、実際の生活に即した目的・場面等が随所に設定されている。 □ 「学びに向かう力・人間性等」の涵養に関して、各単元のまとめとして、やり取りや発表など、学習内容を活用する言語活動が設定されている。 		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に掲げた、次の内容に沿っているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「思いやる力」に関連して、児童がいじめや差別のない社会や世界の人権について考えることができるような読み物等の題材が随所に設定されている。 □ 「たくましく生きる力」に関連して、国境を越えて働く人々の姿を通して国際理解が進むよう、外国で活躍する日本人や日本で活躍する外国人が随所に取り上げられている。 □ 「社会とかかわる力」に関連して、児童が未来に夢をもって主体的に学ぶ態度の育成に向けて、なりたい職業など、キャリア教育につながる題材が随所に扱われている。 		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通部分》</p> <p>○ 学習指導要領の改訂ポイントを踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 単元を通して、目標となる表現についてペアで尋ね合うことをくり返し行い、主体的かつ協働的に学ぶことで気付きが生まれるような活動が随所に設定されている。 □ 環境問題について、単元として大きく取り上げられるなど、理科や社会科などの他教科と関連する題材が随所に設けられている。 <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 言語能力の育成に関して、他者を意識したコミュニケーションができるよう、スピーチや発表をする際によりよく伝えるための準備や方法について取り上げられている。 □ 第5・6学年を通じて、各単元の終わりに、日本の良さや世界の様々な文化や風習を知ることにつながる言語活動が設けられている。 □ 児童がどのように伝えればいいのか体験的に考えられるように、相手に何かを伝えてコミュニケーションをとる活動において、仮想の場面が随所に設定されている。 □ 既習事項を中学校の学習に生かせるように、小学校で扱うべき語彙や表現が別冊として一冊にまとめられている。 □ プログラミング教育の基礎が養われるように、道案内の学習を通して、ゴールに到着するまでの過程を考え、表現するという学び方が示されている。 □ 児童の学習上の困難さへの対応に関して、児童が文字を習得しやすいような書体や4線の書式、紙質が取り入れられている。 <p>○ 児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 見開きにイラストとともに、各単元で使う言語材料について練習して理解を深めるための活動や、第5学年の初めで第3・4学年の復習をする活動が取り入れられている。 <p>《各教科・種目独自の観点》</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 児童が目的意識をもって思考を働かせて言語材料を活用できるよう、実際の生活に即した時期と連動させながら、会話に必然性のある場面が随所に設定されている。 □ 児童が無理なく英語の音に触れることができるよう、各単元の導入部分で、第3・4学年の外国語活動で慣れ親しんだ表現がくり返し取り上げられている。 □ 児童が段階的に学べるよう、第5学年では地域から日本のことを、第6学年では日本から世界のことを学ぶ流れで各単元が設定されている。 		
4 分量・装丁表記等	<ul style="list-style-type: none"> □ 各技能がバランスよく円滑に学べるように、各単元において、音声から文字へ学習が進む構成になっている。 □ 児童が書き込んだり、切り貼りしたりする本体は大判(A4判)に、中学校の学習を見据えた、別冊の語彙・表現集は、携帯に便利なA/B判サイズになっている。 □ 児童が何を学習するのか、どの技能を習得するのかを知らながら学習が進められるように、各活動が5領域の技能アイコンで示されている。 		

【資料Ⅰ】

※書名の表記は第6学年のものに統一

教科種目名《外国語(英語)》

※詳細については、資料Ⅱ(英語-8～英語-17)を参照

発行者の略称	開隆堂	書名	Junior Sunshine
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「知識・技能」の習得に関して、児童が基礎的な力を習得できるよう、同じ表現をくり返し練習したり、日本語と英語を比較したりする言語活動が随所に設定されている。 □ 「思考力・判断力・表現力等」の育成に関して、既習の英語を使いながらテーマに沿って考えて、相手に伝えるという言語活動が随所に設定されている。 □ 「学びに向かう力・人間性等」の涵養に関して、児童が楽しく学べるよう、目的・場面・状況が意識しやすい身近な題材が随所に設定されている。 		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に掲げた、次の内容に沿っているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「思いやる力」に関連して、共生の観点から、様々なスポーツの写真の中に、パラスポーツや、世界の様々な国のアスリートが取り上げられていたりしている。 □ 「たくましく生きる力」に関連して、食育の観点から児童が生活の中で生かせるように、海外における食べ物についての知識が幅広く取り上げられている。 □ 「社会とかかわる力」に関連して、働くことやキャリアについて考える機会となるように、第5・6学年にわたって身近な職業などが扱われている。 		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通部分》</p> <p>○ 学習指導要領の改訂ポイントを踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 児童が主体的・対話的に学習に取り組めるよう、各単元に必ずペア・グループワークを設けるとともに、児童の興味関心に応じた題材が設定されている。 □ 他教科との関連を図り、学びが深まるよう、日本の川や夏の星座など、児童にとって印象深い内容が取り上げられている。 <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 言語能力の育成に関して、児童が目的をもって、他の児童と関わりながら学習できるように、相手意識を持たせたやり取りのできる題材が扱われている。 □ 児童が多様な風習や文化に対する理解を進め、豊かな心情を育むことができるように、国際理解教育に深く関わる題材が取り上げられている。 □ 児童が目的意識をもって活動できるように、興味関心のある状況が設定され、仮想の場面の中で色々な役割や立場を疑似体験できる構成となっている。 □ 中学校との接続を図るために、第6学年で中学校との学習と関連して、小学校で体験的に学習したことを体系的にまとめた内容が設けられている。 □ プログラミング的思考の育成につながるように、道案内の単元において、自分でコマンドを組み立てて動かしながら、英語でやり取りする活動が設定されている。 □ 児童の学習上の困難さへの対応に関して、書くことの活動では書く分量が分かるように示されている。 <p>○ 児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 児童が理解しやすいように、各単元の初めに、新たに学習する言語材料に慣れ親しむ活動や、第5学年の冒頭に、外国語活動での学習内容を復習する活動が設けられている。 <p>《各教科・種目独自の観点》</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 児童が進んで話すことの活動に取り組みたくなるように、随所に自然と必要な表現を使う場面や、年2回、まとめとして語彙や表現を活用する発表活動が設けられている。 □ 外国語活動との無理のない接続ができるように、第5学年の冒頭部分において、第3・4学年で扱った内容をふり返ることから学習を始めている。 □ 世界と自分の住む地域とを比べながら理解を深められるように、世界の様々なあいさつの言い方や正月の様子とともに、十二支や年賀状なども扱われている。 		
4 分量・装丁表記等	<ul style="list-style-type: none"> □ 1時間の活動が過重にならないように、基本的に1ページ1時間配当というつくりになっている。また、身近なことから世界のことに視野を広げていく配列となっている。 □ 児童が書く活動に円滑に取り組めるように、鉛筆で書きやすく、消しゴムで消しやすい紙が使用されていたり、記入欄に罫線が設けられたりしている。 □ 文字の大きさも適当で、手書きに近い欧文書体が用いられている。また、児童が学習状況をふり返りしやすいよう、各単元末で色を塗って確認するマークが配置されている。 		

【資料Ⅰ】

※書名の表記は第6学年のものに統一

教科種目名《外国語(英語)》

※詳細については、資料Ⅱ(英語-8～英語-17)を参照

発行者の略称	学 園	書 名	JUNIOR TOTAL ENGLISH
1 教育基本法、 学校教育法 及び 学習指導要領 との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「知識・技能」の習得に関して、英語の発音やアクセント、語順について日本語との違いを考え、話し合うように構成されている。 □ 「思考力・判断力・表現力等」の育成に関して、事前に音声教材でくり返し練習した表現を使って発表するという構成になっている。 □ 「学びに向かう力・人間性等」の涵養に関して、児童に身近で興味・関心のあることをテーマとして選び、児童が互いに尋ね合ったりする機会が随所に設けられている。 		
2 かながわ教育 ビジョンとの 関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に掲げた、次の内容に沿っているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「思いやる力」に関連して、児童が身近なところに多様性を感じ、世界に目を向けられるように、世界の様々な国の人が登場している。 □ 「たくましく生きる力」に関連して、児童が食に関する知識を生かして具体的に考えられるように、自分たちで料理をするなどの身近な場面が設定されている。 □ 「社会とかかわる力」に関連して、将来の夢の描き方のイメージがもてるよう、身近な人の将来の夢の変化を聞く活動が設定されている。 		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通部分》</p> <p>○ 学習指導要領の改訂ポイントを踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 主体的な態度を促し、自分の考えをもって話し合うことで学習が深まるように、他の児童と関わる必然性を生む課題が設定されている。 □ 他教科との関連を図り、学びが深まるよう、各単元で、家庭科の三色食品群や理科の電気を扱うなど、教科横断的に進められる様々な学習が設定されている。 <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 言語能力の育成に関して、各単元で、英語の表現に慣れ親しめるように、事前に音声教材をくり返し聞き、自分の考えや気持ちを発表する活動が設定されている。 □ 日本との相違点や共通点を理解し、異文化について関心を高められるように、自国を含め、多様な国や地域が題材として取り上げられている。 □ 体験的な学びから英語の表現が定着するよう、各単元において、音声教材を中心とした言語活動をくり返し行い、まとめの段階では発表する場面が随所に設けられている。 □ 中学校で学習する文法をフレーズで自然と覚えられるように、各単元で英語の歌が取り入れられ、第6学年では、中学校生活に関する内容が扱われている。 □ 情報活用能力の育成に関して、プログラミング教育の視点を取り入れた道案内の学習が設けられ、「ホームページの裏側」と題して、情報活用の基礎知識が紹介されている。 □ 児童の学習上の困難さへの対応に関して、文字は入門期でも認識しやすい書体が使用されている。 <p>○ 児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 第5学年の初めに、第3・4学年の学習内容について、ゲームを通して言語材料を、イラストとともに分かりやすく復習する活動が取り入れられている。 <p>《各教科・種目独自の観点》</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 学習のまとめとして、年2回の発展的な発表の機会が設けられている。また、発表の時は円滑に活動ができるよう、発表用シートが掲載されている。 □ 各単元において、くり返し学習し、定着できるように、第3・4学年で学習した表現や語彙が何度も取り上げられている。 □ 日本の伝統文化について取り上げながら、多様な考え方に触れられるように、児童が行きたい場所やその理由を聞いたり、答えたりする単元が設定されている。 		
4 分量・装丁 表記等	<ul style="list-style-type: none"> □ 各単元において、実態に応じて柔軟に学習できるよう、1つの活動を15分で行う構成としながら、学習の進め方について示されている。 □ 製本は、針金を使用せず、大きく開き、紙面をより広く使ったレイアウトになるような綴じ方が採用されている。 □ 未履修の漢字には全てふりがなが付けられている。また、活動内容によって決められた記号や、視覚的に理解を促すためのアイコンが用いられている。 		

【資料Ⅰ】

※書名の表記は第6学年のものに統一

教科種目名《外国語(英語)》

※詳細については、資料Ⅱ(英語-8～英語-17)を参照

発行者の略称	三省堂	書名	CROWN Jr.
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「知識・技能」の習得に関して、文字と音声を結びつけられるように、各単元において、同じ発音をもつ文字を含む単語を繰り返し聞く活動が設定されている。 □ 「思考力・判断力・表現力等」の育成に関して、テーマに沿って自分なりの考えをもち、それを文に表して相手に伝え合う活動が随所に設定されている。 □ 「学びに向かう力・人間性等」の涵養に関して、児童が意欲的に英語で話したり、聞いたりすることができるよう、身近で興味を引く題材が随所に用いられている。 		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に掲げた、次の内容に沿っているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「思いやる力」に関連して、豊かな心を育めるように、児童になじみがあり、心に響くような物語が選ばれ掲載されている。 □ 「たくましく生きる力」に関連して、相手を意識しながら関わろうとする心を育てられるよう、様々な国の言葉や世界に関わる題材が取り上げられている。 □ 「社会とかかわる力」に関連して、自分の生活に関わる人などを意識しながら、自分ができることは何か、社会貢献について考える場面を設定している。 		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通部分》</p> <p>○ 学習指導要領の改訂ポイントを踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 対話的な活動を進められるように、単元のまとめとして、何を取り上げ、どのように伝えるかを他の児童と話し合うグループ発表が設定されている。 □ 他教科との学びのつながりが図れるよう、社会科の地図や理科の動植物の成長などの課題を英語の学習と結び付けながら随所に取り上げられている。 <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 言語能力の育成に関して、児童の興味を引く場面や話題を取り上げ、くり返し音声で聞いたりしてから、他者との協働的な話し合いをする言語活動が設けられている。 □ 色々な国の伝統や文化について触れながら学べるように、外国や日本の文化風習などがテーマに取り上げられ、様々な教材が用意されている。 □ 児童が興味関心をもつことができるよう、身近なことから場面・状況を設定し、他の児童と関わりながら行う体験的な活動が随所に設けられている。 □ 中学校との円滑な接続に向けて、目的を意識しながら内容や構成を考え、表現するという、中学校で行われる言語活動が設けられている。 □ プログラミング教育の視点から、道案内の学習を通して、児童がICTを活用して調べ、まとめたことを発信する活動が設けられている。 □ 児童の学習上の困難さに関して、すべての児童が見やすいように配慮した紙面の構成がなされている。 <p>○ 児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 児童が言語材料について理解しやすくなるように、各単元において、見開きのイラストとともに、英語を聞く活動から始めるなど、音声による導入となっている。 <p>《各教科・種目独自の観点》</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 児童の言語活動の助けとなるよう、「コミュニケーションを円滑にする」方略についてのコラムが紹介されている。また、年3回程度、英語での発表活動が設定されている。 □ 第5学年の冒頭部分において、第3・4学年で慣れ親しんだ表現を復習できるように、既習の表現とともに、関連する挿絵が取り入れられている。 □ 様々な国への興味関心を引き出すとともに、世界における多様性を理解できるように、世界各国の文化や様々な地域の内容が掲載されている。 		
4 分量・装丁表記等	<ul style="list-style-type: none"> □ 第5・6学年において、それぞれ6つの言語活動の目標が設定され、学びを深めるための6つの大単元と、ねらいの異なる小単元が段階を追って配置されている。 □ イラストや写真が大きく見やすくなるように、大判(AB判)が採用されている。また、単語を書き写しやすくなるように、語彙・表現集が別冊になっている。 □ 各単元の初めにあるイラストは、児童が英語を聞いたりして、隅々まで探したくなるように、細かく描かれ、様々な情報が詰められている。 		

【資料Ⅰ】

※書名の表記は第6学年のものに統一

教科種目名《外国語(英語)》

※詳細については、資料Ⅱ(英語-8～英語-17)を参照

発行者の略称	教出	書名	ONE WORLD Smiles
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「知識・技能」の習得に関して、外来語や語順の比較などを取り上げるとともに、活動内容を変えながら同じ表現にくり返し触れる構成となっている。 □ 「思考力・判断力・表現力等」の育成に関して、自分の考えを基にテーマに沿ったスピーチやポスターを作り上げる言語活動が随所に設定されている。 □ 「学びに向かう力・人間性等」の涵養に関して、児童が興味関心をもてるよう、児童のこれからの生活に関わるような目的・場面・状況が随所に設定されている。 		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に掲げた、次の内容に沿っているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「思いやる力」に関連して、自分との共通点や違い、他の児童の良い点に気付き、自尊感情や他者理解につながるように、ペア・グループ活動が随所に取り入れられている。 □ 「たくましく生きる力」に関連して、児童が夢を支える健康的な生活の大切さに気付けるよう、スポーツ選手を支えている人について考えたりする教材が扱われている。 □ 「社会とかかわる力」に関連して、地域の良さに目を向けながら、自分たちの身近な場面から、将来のことや生き方について具体的に考える場面が設定されている。 		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通部分》</p> <p>○ 学習指導要領の改訂ポイントを踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 児童の主體的な学びを促進し、他の児童に気持ちや考えなどを自分から伝えたいとなるよう、児童の興味関心に合った題材の対話的な活動が設けられている。 □ 児童の安心感や達成感につながる教科横断的な学習ができるよう、社会科の地図や国語科の物語などの既習の学習内容が英語として、様々な単元で取り上げられている。 <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 言語能力の育成に関して、相手に配慮し、適切な言葉を選んで返す大切さに気付いたりすることができるように、ペア・グループ活動が随所に設定されている。 □ 様々な場面で自国や海外の文化等に触れ合えるように、日本と世界の国々をテーマの中心として学習を展開している。 □ 表現の意味や働きを体験的に理解できるよう、児童の身近な暮らしに関わる場面におけるコミュニケーション活動が随所に設定されている。 □ 第6学年では、中学校の学習への円滑な接続に向けて、児童が英語の文法にも気付くように、「自由に文を作ってみよう」という言語活動が設けられている。 □ プログラミング教育の基礎を養えるよう、ゴールに到着するまでの過程を考え、表現するという学び方につながる道案内に関する学習が設けられている。 □ 児童の学習上の困難さへの対応に関して、色覚の個人差を問わず、すべての児童が見やすい紙面の色使いや構成が取り入れられている。 <p>○ 児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 児童がゲーム形式などで興味をもって自然と言語材料を活用し、慣れ親しむ機会をもつ単元が随所にある。 <p>《各教科・種目独自の観点》</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 各単元では、映像を見ながら「聞くこと」を通したインプットから始めて、聞き取りから発話などへの流れがスモールステップでくり返し設定されている。 □ 第5学年の冒頭で、外国語活動で扱った表現等を話す活動を通して復習できるように、それらに関係する挿絵が取り入れられている。 □ 児童が自分の住む地域や日本の良いところについて、進んで調べたことを伝え合える単元が設定されている。 		
4 分量・装丁表記等	<ul style="list-style-type: none"> □ 各単元は7時間配当を基本として、教材「We Can!」とほぼ同様の進め方ができる分量となっている。 □ 用紙には、目が疲れず地球環境に配慮し、過度に白色度が高くない軽量の再生紙が使用されていると記載されている。 □ 児童の想像力が高まるよう、イメージ豊かで、音声や英文理解を助ける挿絵、図版、写真になっていたり、地図のようにつなげて見たいものは、見開きで掲載されている。 		

【資料Ⅰ】

※書名の表記は第6学年のものに統一

教科種目名《外国語(英語)》

※詳細については、資料Ⅱ(英語-8～英語-17)を参照

発行者の略称	光村	書名	Here We Go!
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「知識・技能」の習得に関して、音声で慣れ親しんだ文字から段階的に習得できる言語活動が各単元の最後に設定されている。 □ 「思考力・判断力・表現力等」の育成に関して、児童が思考・判断し、楽しみながら学習できるよう、趣向を凝らした場面や状況が随所に設定されている。 □ 「学びに向かう力・人間性等」の涵養に関して、児童が自分事として捉えて考えることにつながる、身近で関わりのあることが題材として随所に取り上げられている。 		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に掲げた、次の内容に沿っているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「思いやる力」に関連して、他者に配慮する態度を養えるように、英語によるやり取りの場面で「あいづち」などの相手への反応が大切であることが示唆されている。 □ 「たくましく生きる力」に関連して、コミュニケーション能力を育むために、自分の意図を伝える丁寧な言い方など、具体的な方法が随所に紹介されている。 □ 「社会とかかわる力」に関連して、人の生き方や自分の将来の夢に目を向けられるように、自分の取り上げたことを相手に紹介したりする場面が随所に設けられている。 		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通部分》</p> <p>○ 学習指導要領の改訂ポイントを踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 各単元で、児童が活動の見通しをもって主体的に取り組めるように、写真や絵などの視覚的な例が随所に示されたりしている。 □ 全体を通して、ゲーム的な要素を採り入れながら、動植物の食物連鎖を取り上げたりするなどして、他教科の学習内容と結び付ける活動が随所に設定されている。 <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 言語能力の育成に関して、コミュニケーション活動をくり返し行ったり、相手意識をもって心を通わせる言葉について考えたりする場面が随所に設けられている。 □ 「世界の他の児童」に関する映像を見たりしながら、日本と外国の文化や風習を知ることにつながる場面・状況などが随所に設定されている。 □ 児童が楽しみながら学ぶことができるよう、児童が興味関心をもつ場面や状況を設定し、目標となる英語の表現を定着させるための体験活動が随所に取り入れられている。 □ 第6学年では、児童が中学校生活への期待につながる内容が扱われ、巻末には、小学校での自分の成長をふり返る活動が設定されている。 □ 道案内の活動を通して、プログラミング的思考に触れながら、必要な情報を選択することを体験できるように、紹介・発表資料の作成活動が設けられている。 □ 児童の学習上の困難さへの対応に関して、学習に関する同じ種類の情報が定位置に配置されている。 <p>○ 児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 各単元の初めに、学習内容についてイメージを膨らませ、理解を促すよう、映像を用いた活動が取り入れられている。 <p>《各教科・種目独自の観点》</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 各単元の初めでは、児童が目標となる表現に気付くように、アニメーションや紙面を参考にしながら、無理なく気付きが生まれる活動が随所に設けられている。 □ 外国語活動から教科としての英語への円滑な接続に向けて、コミュニケーションの上で大切にしたい態度を確認したりする活動が随所に設けられている。 □ 日本との共通点・相違点に気付けるよう、12人の様々な国の小学生を登場させ、世界で暮らす同年代の子どもの様子や得意なことなどを紹介する単元が設けられている。 		
4 分量・装丁表記等	<ul style="list-style-type: none"> □ 第5・6学年を通して一貫したストーリーとなっており、各単元では、見開きの2ページずつで共通した構成になっている。 □ 横組みの文字が読みやすく、紙面を視覚的に大きく見せる横幅の広いA B判が採用されている。軽くて裏移りにくく、鉛筆で書き込みやすい質感の紙が使用されている。 □ 児童の発達段階や教材の内容に応じた文字の大きさや文字組になっており、書くことの教材では意図して大きな文字が使用されている。 		

【資料Ⅰ】

※書名の表記は第6学年のものに統一

教科種目名《外国語(英語)》

※詳細については、資料Ⅱ(英語-8～英語-17)を参照

発行者の略称	啓林館	書名	Blue Sky elementary
1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連	<p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「知識・技能」の習得に関して、単元で学習する語句や表現について音声教材で段階的に活用したり、短時間で学習できる内容を明示したりしている。 □ 「思考力・判断力・表現力等」の育成に関して、場面や状況から英語の意味を推測して聞いたり、自分のことについて考えて発表し合ったりする活動を設けられている。 □ 「学びに向かう力・人間性等」の涵養に関して、自分のしたいこと、やりたいことを考えて表現できるよう、身近な生活の中から題材を取り上げている。 		
2 かながわ教育ビジョンとの関連	<p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に掲げた、次の内容に沿っているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「思いやる力」に関連して、困っている人を助ける場面や、相手に配慮して会話する場面が複数回設定されている。 □ 「たくましく生きる力」に関連して、食育につながるよう、身の回りにある食べ物を思い出す活動や、その人に合った食事を注文する活動が扱われている。 □ 「社会とかかわる力」に関連して、自分の住む地域に関連させながら、防災の備えや将来つきたい職業について考えたりする活動が設定されている。 		
3 内容と構成	<p>《教科・種目共通部分》</p> <p>○ 学習指導要領の改訂ポイントを踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 児童が主体的に学習に向かえるように、身近で児童の興味関心を引く課題が設定され、相手を知ろうという意欲につながる対話的な活動が取り入れられている。 □ 児童の言語理解が深まるように、社会の日本地図や国語の物語教材、グラフの統計の読み取りなど、他教科で既習した内容が取り上げられている。 <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 言語能力の育成に関して、各単元で目標とする表現をくり返し練習できるよう、4技能の言語活動が展開されるとともに、他者を意識したやり取りが設定されている。 □ 世界の国々の様々な文化や習慣を知ることにより、日本との違いに気付き、自国の文化理解や国際理解に資する活動が各単元の終わりに設定されている。 □ グループやペアの他の児童と協力しながら、考えたことを基にして、コミュニケーションを取り合い、様々な体験ができる構成になっている。 □ 児童が小学校との違いを意識することにつながるように、中学校生活を題材とした単元が設けられている。 □ 道案内の学習において、プログラミング教育の視点から、児童がICTを活用して調べ、まとめたことを発信する活動が設けられている。 □ 児童の学習上の困難さへの対応に関して、全ての児童が学習しやすい4線幅が取り入れられている。 <p>○ 児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 第5学年の最初に、外国語活動の内容をまとめたものが掲載されている。また、各セクションで、異なる活動の中で基礎的な語彙や表現をくり返し活用する構成としている。 <p>《各教科・種目独自の観点》</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 語句や表現を「耳に慣らす→聞き取る→発話する」流れで活動を十分に行い、学習を積み上げた上で集大成として、各単元の最後で発表活動を行うようになっている。 □ 第5学年の冒頭で、外国語活動を通して慣れ親しんだ表現を、挿絵を見ながら振り返ることのできる活動が設定されている。 □ 複数の単元で、世界の文化について触れることができる活動が設けられている。また、日本の良さに気付くことができるように、日本の文化の紹介が複数掲載されている。 		
4 分量・装丁表記等	<ul style="list-style-type: none"> □ 概ね教材「We Can!」に沿った配列になっており、さらに必要に応じて扱うことのできる、個に応じた活動や読み物教材等が設けられている。 □ イラストや写真を効果的に掲載できるように、大きな判型(AB判)で、ページを大きく開けるように、針金を使わない「あじろ綴じ」製本が採用されている。 □ 児童が身に付ける力を意識しながら学習を進めることができるように、5領域のうち、主にどの領域に関する活動等なのか、分かるようなマークが設定されている。 		

【資料Ⅱ】

教科種目名 《外国語（英語）》

1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連

① 生きて働く「知識・技能」を習得するための工夫や配慮	
東書	「ことば探検」というコーナーなどでは、日本語と英語の違いに気付くことができるようになっている。また、文構造の共通点に児童自らが気付くことができるように、関連のあるいくつかの文を列挙するよう構成されている。
開隆堂	「文字に慣れよう」では、児童が知っている大きなかぶの物語を読み、言葉の並びに気付く活動が設定されている。また、巻末の「中学校へつなげよう」では、語順を意識したり、日本語との語順の違いに気付いたりできるように、日本語の下に英語の単語を正しい順に並べる活動が随所に設けられている。
学図	関連のある文をいくつか列挙することで、児童が共通する文構造に着目しやすくなっている。また、「言葉の語順やきまりを考えてみよう」では、英語と日本語の違いに気付けるよう、児童が英文と日本語を比べる活動が随所に設定されている。
三省堂	日本語と英語の共通している部分を書くことで、文構造の共通部分に気付いたり、まとまりとして認識したりできるように記載されている。また、語順、音声、文字などについて気付くヒントとなる活動が随所に設けられている。
教出	児童が英文をつくりやすくなるように、穴埋め形式で言葉を埋める課題が設定されている。また、児童が日本語と英語の語順の違いに気付けるよう、主語・動詞・目的語が色分けされて示されたり、日本語と英語を比べる活動が随所に設けられている。
光村	同じ文構造をもつ、それぞれの文について共通する部分に着目しやすくなっている。それにより、児童が自ら文構造の共通点に気付けるよう設定されている。「文字遊び」では、児童が日本語との語順の違いに気付けるよう、シールを使った活動が取り入れられている。
啓林館	関連する文の文構造上の共通点や日本語との語順の違いなどに児童自らが気付くことができるよう、文構造上共通するものを四角で囲んだり、同じ色で表現したりしている。また、学習した後に自分のことを書く活動が取り入れられている。
② 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るための工夫や配慮	
東書	児童が自分なりに文章を考え、英語を使って話すことができるよう、実際の生活において経験するような目的・場面・状況が随所に設定されている。
開隆堂	既習の英語を使いながら、テーマに沿って自分一人、又は他の児童と一緒に考えて、それを相手に伝えるという言語活動が随所に設定されている。
学図	自分の考えをもち、相手と伝え合うことができるよう、児童の身近な題材を取り上げ、事前に音声教材でくり返し練習した表現を使って発表するという構成になっている。
三省堂	あるテーマに沿って自分なりの考えをもち、それを英語で表して、相手と伝え合うという活動が随所に設定されている。
教出	他の児童と一緒に言語活動を楽しみながら、自分の考えを基にテーマに沿ったスピーチやポスターを作り上げる言語活動が随所に設定されている。
光村	各単元で、児童が思考・判断し、楽しみながら学習できるよう、素敵な町づくりを目指して地図の空き地に好きな施設を入れて道案内をするなど、趣向を凝らした場面や状況が随所に設定されている。
啓林館	イラストで示された場面や状況から、英語の意味を推測して聞いたり、自分のことについて考えて発表し合ったりする活動が随所に設定されている。
③ 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための工夫や配慮	
東書	児童が意欲や興味をもって活動できるように、各単元のまとめとして、やり取りや発表など、学習内容を活用する言語活動が随所に設定されている。
開隆堂	児童が楽しく学べるように、お世話になっている人に感謝の言葉を伝えることなど、目的・場面・状況が意識しやすい身近な題材が随所に設定されている。
学図	児童にとって身近で興味・関心のあることをテーマとして選び、児童が互いに尋ね合ったり、発表したりする機会が随所に設けられている。
三省堂	児童が意欲的に英語で話したり、聞いたりすることができるように、児童にとって身近で興味を引くような題材が随所に用いられている。
教出	児童が興味関心をもって外国語学習を継続していけるよう、和英辞典を用いることで自分が知りたい言葉をきっかけに語彙を増やす方法が示されている。
光村	児童が自分事として捉えて考え、意欲的に学習に取り組むことができるように、児童にとって身近で関わりのあることが題材として取り上げられている。
啓林館	児童が自分のしたいこと、やりたいことを考えて表現できるように、身近な生活の中から随所に題材が取り上げられている。

2 かながわ教育ビジョンとの関連

① [思いやる力] 他者を尊重し、多様性を認め合う、思いやる力を育てる上での題材例や工夫・配慮	
(共生、豊かな心、いのちの大切さ、生命の尊厳、人権教育、道徳教育など)	
東書	いじめや差別のない社会や世界の人権について考えらる読み物等の題材が随所に設定されている。また、イラストや写真等で男女が協力して家庭生活を営む男女共同参画社会に資する姿が示されている。
開隆堂	共生の観点から、人気のスポーツを調べる単元などでは、様々なスポーツの写真の中に、パラスポーツや、世界の様々な国のアスリートが取り上げられたりしている。
学図	児童が身近なところに多様性を感じ、世界に目を向けられるように、世界の様々な国の人が登場したり、オリンピック・パラリンピックで見たい競技を尋ね合う活動が設定されたりしている。
三省堂	様々な価値観や他者を認め、受け入れることにつながるように、国際色豊かな人物が登場しているとともに、豊かな心を育てるように、児童になじみがあり、心に響くような物語などが掲載されている。
教出	他者に配慮する表現や態度に関する内容とともに、自分との共通点や違い、他の児童の良い点に気づき、自尊感情や他者理解につながるように、ペアやグループの活動が随所に取り入れられている。
光村	登場人物の設定において、多種多様な見方・考え方に触れられるようにするとともに、他者に配慮する態度を養えるように、話す活動で「あいづち」など、相手への反応が大切さが示唆されている。
啓林館	困っている人を助ける場面や、相手に配慮して会話する場面が複数回設定されている。また、会話の際に相手の文化について考え、配慮できるよう、他言語や異文化についての知識などが紹介されている。
② [たくましく生きる力] 自立した一人の人間として、社会をたくましく生き抜くことのできる力を育てる上での題材例や工夫・配慮	
(公共心、規範意識、責任感、国際化、情報化、食育、健康教育、コミュニケーション能力など)	
東書	グローバル化社会の中、国境を越えて働く人々の姿を通して国際理解が進むよう、外国で活躍する日本人や日本で活躍する外国人が随所に取り上げられ、外国の生活や文化に関する題材も掲載されている。
開隆堂	食育の観点から児童が学習したことを生活の中で生かせるように、海外における食べ物についての知識などが幅広く取り上げられている。
学図	児童が国際性をより身近に感じられるよう、外国に関わる人物が登場しているとともに、食に関する知識を生かして具体的に考えられるように、自分たちで料理をするという身近な場面が設定されている。
三省堂	どんな言語や相手であれ、相手を意識しながら関わろうとする心を育てられるよう、広く言葉に感心をもち、子どもたちの世界を広げる題材が随所に取り上げられている。
教出	児童が夢を支える健康的な生活の大切さに気付けるよう、スポーツ選手を支えている人について考えたり、写真などを生かし、自分たちの地域の食の見直しのきっかけとなる教材などが扱われている。
光村	自分の意図を伝える丁寧な言い方や、相手とのよりよい関係をつくるための言葉など、コミュニケーション能力を育むための具体的な方法が随所に紹介されている。
啓林館	食育につながるよう、身の回りにある食べ物を思い出す活動や、その人に合った食事を注文する活動が設けられている。また、即興的なやり取りにつながる素材が随所に扱われている。
③ [社会とかかわる力] 社会とのかかわりの中で、自己を成長させ、社会に貢献できる力を育てる上での題材例や工夫・配慮	
(生きること、働くことの大切さ、自然や人とのふれあい体験、地域貢献活動、ボランティア活動など)	
東書	未来に夢をもって主体的に学びに向かう態度の育成に向けて、キャリア教育につながる題材が随所に扱われている。また、生き物の生息地や食物連鎖につながる自然に関する内容が取り上げられている。
開隆堂	職業に関する知識に加えて、働くことやキャリアについて考える機会となるように、第5・6学年にわたって身近な職業などが随所に扱われている。
学図	社会貢献について、ヒーローとの共通点からヒーローとは何かを考える場面とともに、将来の夢の描き方のイメージがもてるよう、身近な人の将来の夢の変化を聞く活動が設定されている。
三省堂	自分の生活の中で様々な人やものに関わってきたことを意識できるよう、自分にできることは何か、社会貢献について考えたりする課題などが設定されている。
教出	地域の良さに目を向けて、社会に貢献しようとする態度を育成するために、自分たちの身近な場面から、将来のことや生き方について具体的に考える場面が設定されている。
光村	人の生き方や自分の将来の夢に目を向け、なぜそう考えたのかを明確にできるよう、自分の取り上げたことを相手に紹介する場面や、郷土の良さについて取り上げる題材などが随所に設けられている。
啓林館	社会と関わる力を育てるよう、自分の住む地域に関連させながら、防災の備えや将来つきたい職業について考えたりする活動などが設定されている。

3 内容と構成

○小学校学習指導要領（平成29年告示）の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮

① 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮	
東書	児童が相手意識を持ち、主体的かつ協働的に学ぶことで気付きが生まれるように、単元を通して、目標となる表現についてペアで尋ね合う活動をくり返し行うよう設定されている。
開隆堂	児童が見通しをもって協力して学習を深めることができるよう、各単元に必ずペア・グループワークを設けるとともに、主体的に学習に取り組めるよう、児童の興味関心に応じた題材が設定されている。
学図	児童の主体的な態度を促し、学習が深まるよう、各単元に他の児童と関わる必然性を生むことにつながり、児童が楽しみながら自分の考えをもって話し合う言語活動が設定されている。
三省堂	児童の興味関心をもちながら対話的な活動を進められるように、各単元のまとめとして、何を取り上げ、どのように伝えるかを他の児童と話し合うグループ発表や、身近な課題が随所に設定されている。
教出	児童の主体的な学びを促進し、他の児童に気持ちや考えなどを自分から伝えたいくなるよう、児童の興味関心に合った題材が扱われ、英語で話す活動が様々な単元の中で取り入れられている。
光村	各単元で、児童が活動の見通しをもって主体的に取り組めるように、写真や絵などの視覚的な例が示されているとともに、対話的な学びにつながるグループでの協働学習が設けられている。
啓林館	児童が主体的に学習に向かえるように、身近で児童の興味関心をひく課題が設定され、相手を知ろうという意欲につながる対話的な活動が取り入れられている。
② 他教科との関連等、カリキュラム・マネジメントに資する工夫や配慮	
（教科等横断的に学習を展開する上での工夫や配慮、小学校6年間や義務教育段階9年間の学びのつながりや系統性、基礎的な学習と発展的な学習との明確な区分けなど、子どもが学習を進めたり先生が指導計画を立てたりしやすいような工夫や配慮など）	
東書	環境問題について単元として大きく取り上げられるなど、理科や社会を中心とした他教科と関連する題材とともに、自分事として捉え、自分の思いを発信する活動が設けられている。 毎授業の初めに歌ったり口ずさんだりすることで慣れ親しめるだけでなく、短時間学習として別途活用することもできるように、各単元の冒頭に、その単元の内容に合った英語の歌や、歌やリズムにのせて単語や文章を発声する活動が取り入れられている。
開隆堂	日本の川や夏の三角形など、児童にとって印象深い内容が取り上げられ、総合的な学力の向上を図れる、教科を越えたスパイラル学習となっている。 1ページが45分単位で構成され、さらに1ページが基本的には3つの活動に分かれている。15分間程度のモジュールの時間として活用することもできる歌やゲームなどの活動、歌やリズムにのせて単語や文章を発声する活動として位置づけられている。
学図	各単元において、家庭科の三色食品群や理科の電気を扱うなど、教科横断的に進められる様々な学習が設定されている。 各単元において、児童がイラストを効果的に活用しながら、短時間で楽しく取り組めるように各活動が細かく分かれている。また、活動の目安となる時間が一目で分かるような犬の足跡マークが設けられている。
三省堂	他教科との学びのつながりが図れるよう、社会科の地図や理科の動植物の成長などの課題を英語の学習と結び付けながら随所に取り上げられている。 別途短時間で行うことができるように、各単元において、いくつかの小さな活動として、細かく区切られた形で随所に掲載されており、1単位時間の授業と関連付けながら、独立させて行うことができる構成となっている。
教出	教科横断的な学習を通して、児童が安心感や達成感をもって学習できるよう、社会科の地図や国語の物語などについて、既習の学習内容を英語の学習と絡めながら様々な単元で取り上げられている。 短時間学習としても活用できるように、すべての単元が「Watch」や「Sing」、「Listen」など、内容ごとに整理され、線つなぎや、聞き比べクイズ、英語の歌などの15分程度でできる活動が設定されている。
光村	全体を通して、ゲーム的な要素を採り入れながら、形や色を使って絵を描いたり、動植物の食物連鎖を取り上げたりするなどして、他教科の学習内容と英語を結び付ける活動が随所に設定されている。 教科書目次部分に、「10分程度の短時間の指導に対応している箇所」として短時間学習に活用できる内容が示されているとともに、各単元で、短時間学習に対応できる15個前後の細分化された活動が取り入れられている。
啓林館	言語理解が深まるように、社会の日本地図や国語の物語教材、グラフの統計の読み取りなど、他教科で既習した内容が取り上げられている。 短時間学習に活用できるように、砂時計の形をした「モジュールマーク」で該当箇所が示されている。また、1単位時間の授業と関連付けながら活用できるように、歌や絵カードを使った活動、リズムにのせて単語や文章を発声する活動が設定されている。

○学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮

③ 言語能力の確実な育成に資する工夫や配慮	
東書	他者を意識しながらコミュニケーションを図るための基礎となる能力の育成に向けて、スピーチや発表をする際に、よりよく伝えるための準備や方法について随所に取り上げられている。
開隆堂	児童が目的をもって、他の児童と関わりながら学習し、くり返しコミュニケーションをとることができるように、相手意識を持たせたやり取りの活動として設けられている。
学図	英語の表現に慣れ親しめるように、自分の考えや気持ちを発表する際には、事前に音声教材をくり返し聞き、また発表については1度だけではなく複数回設定されている。
三省堂	児童の興味を喚起させる場面や話題が取り上げられ、多くの語句をくり返し音声で聞いたり、話したりして英語の表現に慣れ親しんでから、他者との協同的な話し合いをする言語活動が設けられている。
教出	相手に配慮し、適切な言葉を選んで返す大切さに気付いたり、同じ表現をくり返し使ったりすることができるように、ペアやグループなど、他の児童と関わり合う活動が随所に設けられている。
光村	段階的に難易度を上げながら、コミュニケーションをくり返し行ったり、相手意識をもって心を通わせる言葉について考えたりする場面が設けられている。
啓林館	各単元で目標とする表現をくり返し練習できるよう、4技能の言語活動を展開するとともに、円滑にコミュニケーションを図る基礎的な能力の育成に向けて、他者を意識したやり取りが設けられている。
④ 伝統や文化に関する教育の充実に資する工夫や配慮	
東書	児童の多様な風習や文化に対する理解につながるよう、第5・6学年を通じて各単元の終わりに、日本の良さや世界の様々な文化や風習を扱った言語活動が設けられている。
開隆堂	児童が多様な風習や文化に対する理解を進め、豊かな心情を育むことができるように、国際理解教育に深く関わる題材が取り上げられている。
学図	日本との相違点や共通点を理解し、異文化について関心を高められるように、自国を含め、多様な国や地域が題材として取り上げられている。
三省堂	色々な国の伝統や文化について触れながら学べるように、外国や日本の文化風習などがテーマに取り上げられ、様々な教材が用意されている。
教出	様々な場面で自国や海外の文化等に触れ合えるように、日本と世界の国々をテーマの中心として学習を展開している。
光村	同じ世代の小学生が出演する「世界の友達」に関する映像を見たりしながら、日本と外国の文化や風習を知ることができる実際の状況・場面などが随所に設定されている。
啓林館	日本との違いに気付くことを通して、自国の文化理解や国際理解につながるように、世界の国々の様々な文化や習慣を知る活動が各単元の終わりに設定されている。
⑤ 体験活動の充実に資する工夫や配慮	
東書	児童がどのように伝えればいいのか体験的に考えられるように、相手に何かを伝えてコミュニケーションをとる活動において、実際の生活で体験するような場面が随所に設定されている。
開隆堂	児童が自分の考えを相手に伝えるという目的をもちながら活動できるように、興味関心のある状況を設定し、仮想の場面の中で色々な役割や立場を疑似体験できる構成となっている。
学図	体験的な学びを通して英語の表現が定着するように、各単元におけるまとめの段階において、音声教材を中心にくり返し言語活動を行い、発表する場面が随所に設けられている。
三省堂	語彙や表現を理解しやすくなるように、児童が興味関心をもつ身近なことから場面・状況を設定し、他の児童と関わりながら行う体験的な活動が随所に設けられている。
教出	児童が表現の意味や働きを体験的に理解できるように、児童の身近な暮らしに関わる場面にと関連付けたコミュニケーション活動が随所に設定されている。
光村	児童が楽しみながら学ぶことができるよう、興味関心をもつ場面や状況の中で、体験的に目標となる英語の表現を活用し、定着させるための活動が随所に取り入れられている。
啓林館	児童の理解が進むように、グループやペアの他の児童と協力しながら、考えたことを基にして、コミュニケーションを取り合い、様々な体験ができる構成になっている。

⑥ 学校段階間の円滑な接続に資する工夫や配慮	
東書	中学校の学習に既習事項を生かせるように、小学校で扱うべき語彙や表現が別冊として一冊にまとめられている。第6学年で、小学校生活をふり返る単元が設定され、既習の英文が整理されている。
開隆堂	第6学年で中学校との接続が図れるように、小学校で体験的に学習したことを体系的にまとめられているとともに、中学校の学習内容を体験したり、中学校生活について学んだりする内容が随所に掲載されている。
学図	各単元で、中学校で学習する文法をフレーズで自然と覚えられるように、英語の歌が取り入れられ、第6学年の題材として、中学校生活に関する内容が扱われている。
三省堂	中学校との円滑な接続に向けて、目的を意識して内容や構成を考え、表現するという、中学校で行われる言語活動が設けられている。また、中学校初期で多用される初学者用書体が使用されている。
教出	第6学年では、中学校の学習への円滑な接続に向けて、児童が英語の文法にも気付くように、「自由に文を作ってみよう」という言語活動が設けられている。
光村	第6学年では、児童が中学校生活への期待につながる内容が扱われ、既習内容を中学校での学習に生かすことができるように、巻末に小学校での自分の成長をふり返る活動が設定されている。
啓林館	児童が小学校との違いを意識できるように、中学校生活を題材とした単元が設けられている。また、第5学年から第6学年にかけて、徐々に文字を読んだり書いたりする機会が増えるよう構成されている。
⑦ 情報活用能力の育成に資する工夫や配慮	
東書	プログラミング教育の基礎が養われるように、道案内の学習を通して、ゴールに到着するまでの過程を考え、表現するという学び方を理解することにつながる課題が設定されている。
開隆堂	プログラミング的思考の育成につながるように、道案内の単元において、自分でコマンドを組み立て、対象を思い通りに動かしながら、英語でやり取りをするという活動が設けられている。
学図	プログラミング教育の視点から、道案内の学習で、ゴールに到着するまでの過程を考え、表現する活動が設定されている。また、「ホームページの裏側」と題して、情報活用の基礎知識が紹介されている。
三省堂	I C Tを活用して調べ、まとめたことを発信できるように、プログラミング教育の視点から、道案内の学習を通して、ゴールに到着するまでの過程を考え、発表する体験的な活動が設けられている。
教出	プログラミング教育の基礎を養えるよう、ゴールに到着するまでの過程を考え、表現するという学び方につながる道案内に関する学習が設けられている。
光村	道案内の活動を通して、プログラミング的思考に触れるとともに、必要な情報を選択することを体験することができるように、紹介・発表資料の作成活動が設けられている。
啓林館	道案内の学習において、プログラミング教育の視点から、児童がI C Tを活用して調べ、まとめたことを発信する活動が設けられている。
⑧ 児童の学習上の困難さに応じた工夫や配慮	
東書	各活動が紙面上の定位置に配置されていたり、文字を習得しやすいような書体や4線の書式、紙質が取り入れられている。また、「カラーバリアフリーを含むユニバーサルデザインに配慮しています」と記載されている。
開隆堂	「カラーユニバーサル視点から、色覚の個人差を問わず、できるだけ多くの児童が見やすくなるように配慮しています」と記載されている。また、児童が書きやすくなるように、書く分量が分かるよう示されている。
学図	文字は入門期でも認識しやすい書体を使用され、配色等について、「色覚の個人差を問わず、できるだけ多くの人に見やすいように配慮して作成しました」と記載されている。
三省堂	全児童が見やすいように、紙面の構成、文字の大きさや書体、イラスト等について、「ユニバーサルデザインに配慮して編集しています」と記載されている。
教出	「色覚の個人差を問わず、より多くの人に見やすいカラーユニバーサルデザインに配慮しています」「見やすさ・読みやすさに配慮したユニバーサルフォントを使用しています」と記載されている。
光村	「カラーユニバーサルデザインや特別支援教育の観点から、全てのページについて専門家による校閲を行っています」と記載されている。
啓林館	「見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています」「個人の特性にかかわらず、内容が伝わりやすい配色・デザインを用いました」と記載されている。

○ 児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。

⑨ 児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮	
東書	各単元で使う言語材料の理解を深められるよう、見開きに理解を助けるイラストとともに、練習する活動が配置されている。また、第5学年の初めで第3・4学年の復習をする活動が取り入れられている。
開隆堂	児童が理解しやすいように、各単元の初めに、新たな言語材料に親しむ活動や、第5学年の冒頭に、語句や表現をくり返し学習できるように、外国語活動で学習した内容を復習する活動が設けられている。
学図	第5学年の初めに、第3・4学年の学習内容について、ゲームを通じて言語材料を、イラストとともに分かりやすく復習する活動が取り入れられている。
三省堂	児童が言語材料について理解しやすくなるように、各単元の初めに、見開きのイラストとともに、聞く活動を設けている。また、第5学年の初めに、外国語活動で学習した語句を復習する活動を設けられている。
教出	学習内容をくり返し復習できるよう、第5学年の最初に、第3・4学年の言語材料がまとめられている。また、児童がゲーム形式などで興味をもって自然と言語材料を活用する機会をもつ単元が随所にある。
光村	各単元の初めに、学習内容についてイメージを膨らませ、理解を促すよう、映像を用いた活動が取り入れられている。また、各学年の冒頭で、既習の内容を確認・復習するための内容が設けられている。
啓林館	第5学年の最初に、外国語活動の学習内容をまとめたものが掲載されている。また、各セクションにおいて、異なる活動を通して、基礎的な語彙や表現をくり返し何度も活用する構成としている。

⑩ 「聞くこと」「読むこと」「話すこと[やり取り]」「話すこと[発表]」「書くこと」などのコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を総合的に育成できるよう、実際の言語の使用場面や言語の働き等に十分配慮した題材を取り上げるなどの工夫や配慮	
東書	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が目的意識をもって思考を働かせて言語材料を活用できるよう、実際の生活に即した時期と連動させながら場面が設定されている。また、学習内容の定着が図れるよう、各単元の中でくり返し聞いたりする活動が設定されている。 ・アルファベットの文字を正しく読むために音声教材を活用しながら、名前読みと音読みの区別について学べるように設定されている。また、児童が読むことへの意欲がもてるように、これまでの学習で慣れ親しんだ語句や表現を用いた物語などが題材として設定されている。 ・児童が目的意識をもって思考を働かせて言語材料を使えるよう、会話に必然性のある場面設定をしている。また、円滑な活動の助けとなるように、巻末のカードを利用できたり、やり取りの時に使える表現が示されている。 ・児童が英語表現を理解した上で発表できるよう、段階的に活動が設けられている。相手に配慮した話し方だけでなく、安心して発表できる雰囲気づくりのために、聞き方についても取り上げられている。 ・活字体の正しい書き方が分かるよう、書き順や留意点の記載がされている。また、文章を書く時には自分に関する簡単な事柄について少しずつ書きためた文を基にして書けるように設定されている。
開隆堂	<ul style="list-style-type: none"> ・児童にとって、言語材料が無理なく身に付いていくように、各単元の中で、単元目標に向けて、くり返し活動に取り組んで、何度も語彙や表現等に触れながら、難易度の点から複数回にわたって段階的に学習する構成となっている。 ・第5・6学年に共通して、日常の中にあるアルファベットについて意識したり、文章から単語の意味を考えたりできるように、巻末に「文字に慣れよう」という内容が掲載され、「読む」ことの基礎を体系的にくり返し学習することが設定されている。 ・身近な内容の会話についての表現を理解し、話すことができるよう、くり返し段階を追って聞く活動や、ペアでのやり取りなどの活動が設けられている。また、児童がやり取りしたくなって、自然と必要な表現を使えるように、興味を引き出す場面設定をしている。 ・児童が取り組みやすいように、発表活動は単元の最後に設定され、場面を想像できる挿絵が示されている。また、年2回、語彙や表現を活用して自分の気持ちや考えを発表する活動が設けられている。 ・各単元でまとめとして、必然性をもたせるために、相手意識のある書く活動が位置付けられている。また、書く活動を体系的にまとめるように、巻末に「文字に慣れよう」という内容が設定されている。
学図	<ul style="list-style-type: none"> ・Let's Listenのスキプトの中には、くり返し学習ができるように、目標となる表現が2回以上登場するとともに、既習事項も入っているよう設定されている。また、分からないことがあっても推測しながら聞くことができるよう、イラストなど視覚情報が複数設けられている。 ・日常生活でよく使ったり、目にしたりする英語を中心に、「読むこと」の活動が配置されている。また、第5・6学年を通して、つながりのある内容から推測しながら読めるよう、犬のシャギーの物語が単元の終わりに設定されている。 ・Small Talkや、やり取りの活動の理解が進むように、実際のコミュニケーションの場面を表すイラストが随所に用いられている。また、児童が安心して活動に取り組めるように、聞く活動でくり返し学んだ表現を使ったり、巻末の表現リストを活用した発展的な取組が設けられている。 ・児童が目標をもって取り組めるよう、年2回の発展的な発表の機会が設けられている。また、発表の時は円滑に活動ができるよう、発表用シートが設けられている。 ・最後に自分に関することを選んで書くことができるように、音声で十分に慣れ親しんだ上で「書くこと」を意識し、「なぞり書き→写し書き」のステップを踏む流れとなっている。

三省堂	<ul style="list-style-type: none"> ・児童に視覚的情報を手掛かりに聞く活動ができるように、紙面全体を用いた絵や写真が採用されている。また、各単元前半にインプットの機会が十分確保されるよう、聞く活動が複数設定されている。さらに、全体の内容を推測しやすいように、理解のためのキーワードを慣れ親しんだ言葉に限っている。 ・アルファベットは、第5学年の最初に、文字への関心を持続させながら形や読み方が習得できるよう、ゲーム的な要素が取り入れられている。また、同じ音をもつ語彙を集めた活動で音を学び、音に十分に慣れ親しんだ後に読む活動につなげる構成となっている。 ・やり取りの活動が円滑にできるように、参考となる例示がくり返し設定されている。また、児童がやり取りに関する言語活動をする際の助けとなるよう、「コミュニケーションを円滑にする」方略についてのコラムが紹介されている。 ・児童が目標をもって取り組めるよう、年3回程度、英語での発表の場面が設定されている。また、発表については、児童が無理なく取り組めるように、スモールステップで設定されている。 ・文を書く時には、単に書き写すのではなく、語句のサンプルを用いて自己表現できるように、語句と語句の間は空けることなどが紹介されながら、目標とする表現のみを書くことに絞られている。
教出	<ul style="list-style-type: none"> ・各単元では、映像や紙面を参考にして表現や語彙を理解できるように、映像を見ながら「聞くこと」を通したインプットから始め、音声のみでの聞くことへと学習が進められている。また、インプットの時間を確保できるように、単元の前半に聞く活動を充実させるよう設定されている。 ・文字を「読むこと」に継続的に慣れ親しむことができるよう、各単元の最後にアルファベットのページが配置されている。また、文字を読むことへの抵抗感を緩和するよう、他教科で学習した教材や、4コマになった分かりやすい内容の物語が盛り込まれている。 ・どんなやり取りをするのか、イメージがつかみやすいように、簡単な会話文とともに、イラストが効果的に用いられている。また、児童が無理なくやり取りの活動ができるように、聞き取りから発話などへの流れが段階的にくり返し設定されている。 ・単元末に行う発表を見通して学習を進められるよう、各単元の冒頭で単元目標が示されている。また、児童が無理なく取り組めるよう、発表の前段階に基となる資料を作成する活動が設定されている。 ・まとまった英文を書いてポスターなどの成果物を完成させる活動では、文章を書く時のヒントとなる例が提示されているとともに、書きやすくするためのワークシートが準備されている。
光村	<ul style="list-style-type: none"> ・各単元の初めでは、児童が目標となる表現に気付くように、アニメーションと紙面を参考にして英語を聞く活動が設けられている。また、各単元では、語句や表現を聞き取る活動、必要な情報を聞き取る活動、短い話の概要を捉える活動が系統的に配置されている。 ・各単元において、児童が音と文字を結びつけながら、必要な情報を読み取り、言語理解につなげられるようにするために、ゲーム的な要素も取り入れながら、様々な活動の中で楽しくアルファベットの文字に親しむ活動が随所に設定されている。 ・児童が、実際の会話において重要な継続性のある、やり取りができるようにするために、他者とのコミュニケーションをとる際に大切なことを学習した上で、各単元の学習に効果的に取り組める流れが随所に取り入れられている。 ・各単元で、人やものを紹介したり、自分のことを伝えたり、地域のことを発表する活動が設定されている。また、「気をつけよう」という指示が常にあり、発表を聞く際の反応について触れられている。 ・英単語や英文を書くことに慣れるように、書くことに関するゲーム的な要素を取り入れた活動や、文字をなぞったり、書き写したりする活動が系統的に設定されている。
啓林館	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が内容を推測し、理解できるように、場面やイラスト、ジェスチャーなどの手掛かりを基に、聞く活動が設定されている。また、毎時間の活動を通してスモールステップで学習が進められるよう、易から難へと内容が位置付けられている。 ・児童が必要感をもって取り組めるよう、実際の生活の場面に即した内容の「読むこと」の活動が展開されている。また、児童が語彙や表現の読み方に気付きながら、発音できるようにするために、くり返し読む活動が設けられている。 ・児童が即興的なやり取りの中でも活用できるように、ある程度決まったパターンのやり取りを行い、段階的に発展させる構成となっている。また、既習事項を使ったやり取りや、単元の導入に適したSmall Talkに使える素材となるイラストや写真が各単元で掲載されている。 ・活動を十分に行い、積み上げた上で集大成として発表活動を行えるよう、発表活動は各単元の最後で行い、語句や表現を「耳に慣らす→聞き取る→発話する」という流れになっている。 ・自分の考え等に合う語句を選び、例文を見ながら書き写したりする活動が随所に設けられていて、基本的な表現や語彙、文字を書くことを段階的に進め、少しずつ慣れ親しめるよう構成されている。

⑪ 小学校外国語活動との関連した構成となるよう、外国語活動で扱った音声や表現を取り上げるなどの工夫や配慮

東書	外国語活動で慣れ親しんだ表現がくり返し取り上げられ、何度も復習しながら英語の音に触れられるよう、導入部分が設定されている。また、慣れ親しんだ語や表現を使ってやり取りをする活動が随所に設けられている。
開隆堂	第5学年の冒頭部分において、無理のない接続ができるように、外国語活動で扱った内容を振り返ることから始められている。また、各単元の導入の聞く活動で、第3・4学年での学習を復習する内容が取り入れられている。
学図	第5学年では、第3・4学年で学習した表現をまとめて復習できる単元が設定されている。また、各単元においても、くり返し学習し、定着できるように、第3・4学年で学習した表現や語彙が何度も取り上げられている。
三省堂	第5学年の冒頭部分において、3・第4学年で慣れ親しんだ表現を復習しやすいように、既習の表現に関わる挿絵が取り入れられている。また、各単元では新出事項に加え、既習事項も活用してできる活動が設定されている。
教出	第5学年の冒頭で、外国語活動で扱った表現等を話す活動を通して復習できるように、それらに関係する挿絵を取り入れられている。また、第5学年最初の単元では、慣れ親しんだ表現を用いた聞く活動が設定されている。
光村	外国語活動から教科としての外国語への円滑な接続に向けて、コミュニケーションの上で大切にしたい態度や、外国語活動で触れてきた表現やアルファベットを確認したりする単元が随所に設けられている。
啓林館	第5学年の冒頭で、挿絵を見ながら慣れ親しんだ表現を振り返る活動が設定されている。また、各単元には、慣れ親しんだ表現を聞いたり、話したりする上で、児童のイメージづくりの助けとなる挿絵が取り入れられている。

⑫ 国際理解を深めることにつながるように、世界の人々や日本人のくらしや、歴史、文化、自然などが、児童の発達段階や興味・関心に即して取り上げるなどの工夫や配慮

東書	自国の文化の理解に向けて、英語表記の地図で日本の名産や名物等に関する活動が設定されている。また、2年間を通して我が国の文化を学んだ上で、世界を見つめ直す力がつくように、第5学年では地域から日本のことを、第6学年では日本から世界のことを学ぶ流れで単元が設定されている。
開隆堂	音声や映像を通して、日本や海外の文化や人々の考えを知る活動が設けられている。世界や自分の住む地域とを比べながら理解を深められるように、世界の様々なあいさつの言い方や正月の様子が記載されている。また、日本の文化の理解にもつながるように、十二支や年賀状なども扱われている。
学図	自国の文化への理解を深められるように、日本の伝統文化について取り上げられている。また、多様な考え方に触れられるように、児童が行きたい場所やその理由を聞いたり、答えたりする単元や、異文化理解に向けて、様々な国の文化に触れる単元が設定されている。
三省堂	児童が世界における多様性を理解できるように、世界各国の文化や様々な地域の内容が掲載されている。また、第6学年では、児童が世界について興味をもつことができるように、巻末に付録として、各国の文化が写真とともに取り上げられている。
教出	児童が自分の住む地域や日本の良いところについて、進んで調べたことを伝え合える単元が設定されている。他国とのつながりを意識することができるように、第5学年では海外の学校の様子や手話、第6学年では外来語や絶滅危惧種をテーマにして、世界各国の言語や文化の紹介をする活動が設けられている。
光村	自国の文化に興味をもてるように、日本の文化などを紹介する単元が設定されている。世界で暮らす同年代の子どもの様子を知ることにより、日本との共通点・相違点を理解し、関心が高まるように、12人の様々な国の小学生が登場し、自分の国の様子や得意なことなどを紹介する単元が設けられている。
啓林館	複数の単元で、世界の文化について触れることができる活動が設けられている。第5学年では、世界の文化について理解できるように、世界の様々な料理の写真やイラストが紹介されている。また、様々な視点から日本の良さに気付くことができるように、日本の文化の紹介が複数掲載されている。

4 分量・装丁・表記等

① 各内容の分量とその配分は適切であるか。

東書	全単元を見開き4つのセクションからなる8時間抜いで、1ページを45分、各活動は主に約15分単位で構成されている。また、進度の目安がつきやすいように、1か月当たり1単元で、年間配当時数が70時間の設計になっている。各単元において、各技能がバランスよく円滑に行えるように構成されている。
開隆堂	1時間の活動が過重にならないように、基本的に1ページ1時間配当というつくりになっている。また、各単元において、身に付けた知識・技能を用いて、話し合い活動を行い、思考力・判断力・表現力を身に付ける流れで、身近なことから世界のことに視野を広げながら学習を進める配列となっている。
学図	各単元において、実態に応じて柔軟に学習できるよう、1つの活動を15分で行う構成としている。第5学年では、外国のことを知ることを目標として、随所にインプットを得る活動が取り入れられ、第6学年では、日本のことを発信することを目標としながら、アウトプットの機会を増やしている。
三省堂	第5・6学年において、それぞれ6つの言語活動の目標が設定され、学びを深めるために大単元と小単元を段階を追って学習する配置となっている。また、児童の実態に応じて時数を調整し、単元によって弾力的に運用できるように、各学年で余裕をもたせた年間指導時数が設定されている。
教出	一部を除いて各単元は7時間配当を基本として、新教材「We Can!」とほぼ同様の進め方ができる分量となっている。第5・6学年ともに、習得した内容を活用する時間を考慮した上で年間指導時数に余裕をもたせている。2年間を通して、児童が無理なく学習できるように、段階的に内容が配列されている。
光村	児童にとって、教材の難易度が平易なものから段階的に高くなるように配列されている。また、第5・6学年を通して一貫したストーリーとなっており、各単元では、見開きの2ページずつで基礎的な知識・技能の習得から活用によって思考力・判断力・表現力を養う共通した構成になっている。
啓林館	概ね「We Can!」に沿った配列になっており、第5学年では、主に身近なことについて英語で表現する内容を、第6学年では身の回りのことをさらに詳しく調べたりする内容が随所に扱われている。また、必要に応じて扱うことのできる、個に応じた活動や読み物教材等が設けられている。

② 体裁がよく、児童が使いやすいような工夫や配慮

東書	紙は軽くて丈夫、かつ裏抜けのしにくいものを使用しているとともに、巻末は書き込みのしやすい用紙に変更されている。児童が書き込んだり、切り貼りしたりする本体は大判（A4判）に、中学校の学習を見据えた、別冊の語彙・表現集は、携帯に便利なA B判サイズになっている。
開隆堂	児童が書く活動に円滑に取り組めるように、鉛筆で書きやすく、消しゴムで消しやすい紙が使用されていたり、記入欄に罫線が設けられたりしている。製本は、「あじろ綴じ」を採用し、大きく開くことができるつくりとなっている。表紙は、汚損しにくいように、強度の高い加工が施されている。
学図	製本は、針金を使用せず、大きく開き、紙面をより広く使ったレイアウトになるような綴じ方が採用されている。表紙は、折れにくく、汚れてもふき取りやすい加工が施され、他は軽量で鉛筆等で書き込みやすい用紙が用いられている。
三省堂	イラストや写真が大きく見やすくなるように、大判（A B判）が採用されている。また、単語を書き写す活動のときに見やすく分かりやすくなるように、語彙・表現集が別冊になっている。さらに、白色度の高すぎない紙が使用され、長期間の使用に耐えられるような製本となっている。
教出	用紙には、目が疲れず地球環境に配慮し、過度に白色度が高くない軽量の再生紙が使用されている。製本は長期間の使用に耐えられるようなものになっている。また、折れにくく、汚れをふき取りやすい加工が施されている表紙になっている。
光村	横組みの文字が読みやすく、紙面を視覚的に大きく見せる横幅の広いA B判が採用されている。表紙は、折れにくく、汚れをふき取りやすい加工が施され、製本は中央が最大限開く「あじろ綴じ」が採用されている。軽くて裏移りしにくく、鉛筆で書き込みやすい質感の紙が使用されている。
啓林館	イラストや写真を効果的に掲載できるように、大きな判型（A B判）で、ページを大きく開けるように、針金を使わない「あじろ綴じ」製本が採用されている。環境に配慮するとともに、書きやすく、消しやすい、軽量で丈夫な再生紙が使われている。

③ 文章表現や漢字・用語・記号・計量単位・図版等、児童が理解しやすいような工夫や配慮	
東書	児童が内容を推測しながら聞くことに役立つ場面や状況を示すイラストや写真が用いられている。また、文中で場面や状況に注目させたり、言葉を入れ替えさせたりしたい箇所には、色つきの網掛けがしてある。児童が何を学習するのか、どの技能を習得するのかが分かるように、各活動を5領域の技能アイコンで示されている。
開隆堂	児童の発達段階に応じて、分かりやすく、読みやすい文章表現や、語彙や活動のイメージが湧くような写真やイラストが複数用いられている。また、文字の大きさも適当で、手書きに近い欧文書体が用いられている。さらに、各単元末に、色を塗ることで、児童が学習状況をふり返ることができるマークが配置されている。
学図	学年配当漢字や上位学年配当漢字には全てふりがながつけられている。児童が活動内容を一目で理解しやすいように、活動内容によって決められた記号や、視覚的に理解を促すためのアクティビティアイコンが用いられている。また、四線の二本目と三本目の間が広く開いていることで、文字が書きやすくなっている。
三省堂	原則的に該当学年前までの配当漢字が使用されており、該当学年以上の漢字にはすべてふりがなが付けられている。また、各単元の初めにあるイラストは、児童が隅々まで探したくなるように、細かく描かれ、様々な情報が詰められている。さらに、教科書の冒頭のページで、紙面構成や記号について丁寧に説明されている。
教出	児童の想像力を高め、音声や英文理解を助ける挿絵、図版、写真が採用され、地図のようにつなげて見たいものは、見開きで掲載されている。また、書く練習がしやすいように4線の二本目と三本目の間が広く空いている。さらに、児童が内容を理解しやすいように、文章の改行位置が文節で区切られている。
光村	発達段階や教材の内容に応じた文字の大きさや文字組になっており、書くことの教材では意図して大きな文字が使用されている。また、児童が内容を推測しやすいような写真やイラストが複数使われている。各単元の初めに、児童の興味を引くためのイラストや、見通しをもって学習に臨むための学習目標や流れが掲載されている。
啓林館	児童が語彙や表現についてイメージしやすくなるように、イラストが複数用いられ、必要な場面では写真も掲載されている。また、未履修の漢字には、すべてふりがなが付けられている。さらに、児童が身に付ける力を意識しながら学習できるよう、どの領域に関する活動等なのか、分かるようなマークが設定されている。

【参考】

① 題材に関連した神奈川県に関する文章や写真・グラフ等の掲載	
三省堂	日本の名所の一つとして横浜中華街が取り上げられている。
教出	思い出の行事の紹介として、横浜への修学旅行が短文で紹介されている。
光村	神奈川県出身のプロバスケットボール選手の「田臥勇太」氏が世界で活躍する日本人として紹介されている。
啓林館	自分の住む地域の紹介において、横浜のベイブリッジが示され、神奈川県が取り上げられている。

② URL、二次元コード等の掲載の有無	東書			開隆堂			学図			三省堂		
	1・2年	3・4年	5・6年									
	/	/	有	/	/	有	/	/	有	/	/	有
URL、二次元コード等の掲載の有無	教出			光村			啓林館					
	1・2年	3・4年	5・6年	1・2年	3・4年	5・6年	1・2年	3・4年	5・6年			
	/	/	有	/	/	有	/	/	有			

③ 一冊ごとの重量 (g)				
発行者名	総冊数	5年	6年	5・6年
東書	3	280	280	116
開隆堂	2	362	379	/
学図	2	431	425	/
三省堂	2	310	292	/
教出	2	331	336	/
光村	2	358	366	/
啓林館	2	300	300	/